

3D空間で  
バーチャル  
体験!

# インターネット時代の 首都機能都市に迫る!

近頃ニュースでもよく話題となる「首都機能移転」。これは何のためにやるのか。また、そもそも首都機能移転とは何なのか。楽しみながらわかるCD-ROMの登場を機に、首都機能都市の姿に迫る。



危機管理センター。東京圏は地震に弱く、こうした首都機能の分散化によって万が一の場合でも国家がマヒするのを防ぐ。

「首都機能移転」とは国会、行政、司法といった機関を東京圏以外の新しい都市に移すことだ。移転が必要な理由としては災害が発生しても機能を分散させて被害を小さくすること、情報や企業活動などが東京へ極集中する状況を是正すること、そして機能分散によって政治や行政のシステムを見直す契機にすることの3つが挙げられる。

## ◆ いま首都機能を移転する理由

こうした目的を果たせる移転先の候補地も、昨年12月に国会等移転審議会が答申を発表するなどいよいよ移転は現実味を帯びてきた。移転先では東京のような巨大都市を建設するのではなく、新しく理想的な都市の実現をめざす。そこで首都移転に携わる国土庁の担当者に話をきき、広報活動を重点的に進める現状と今後の都市像を探ってみた。

### インタビュー

## ◆ 街作りにもっと提言を

国土庁首都機能移転企画課企画官の橋本武氏。「首都機能移転は巨大なプロジェクト。国や関係者の思惑だけでは立ち行かない」と語る。



今回CD-ROMを出されたことについては、どういった狙いがあるのでしょうか。

首都機能移転の意義と都市像について、これまで言葉では説明しづらかった部分を少しでもわかりやすく伝えるのが目的です。いままで紙の報告書や文書データをまとめたCD-ROMはありましたが、単なる設計図だけでなくゲーム性も持たせて楽しみながら理解してもらおうというのは、国土庁どころか省庁では初めての試みではないかと思えます。

情報分野では東京への一極集中という状

況がより拡大しているということですが。

インターネットが普及して、たとえば九州のお店がオンラインで出店してお客さんが増えるようなケースもありますが、逆にメディアなどは東京への集中を強めており、通信環境でも格差はより開いていると考えています。

新都市における情報通信、特にインターネット関連の具体的なプランはありますか？

近年マレーシアではマルチメディア・スーパー・コリドー計画のような戦略的な基盤整備も出ていますが、日本では首都機能移転の実現に少なくとも15年程度はかかります。現在はまだ突き詰めた像を作る段階ではありません。CD-ROMでは見ることができませんが、人々の持つ情報端末がモバイルからウェアラブルへと変貌していくことなども予測しなければなりません。ただ、街作りで特に注意すべき点として環境、国際性、景観と並んで情報を挙げており、最先端の情報技術を駆使した街を目指すのだけは確実です。

正直に言えば、新都市の建設にまだ固定された計画ができあがっているわけではありません

国会図書館。多国語表示や音声読み上げの機能を持つ情報端末を備え、どんな人でも必要な情報にアクセスできるようになる。

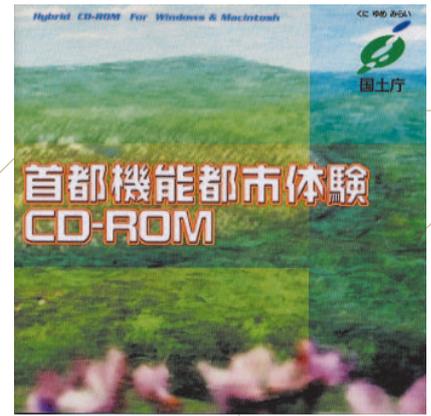


ん。実際にCD-ROMで体験してもらって、意見をいただければと思います。

**働き方をはじめとしたライフスタイルに変化は出るでしょうか？**

先日インターネット上で行った調査では、理想の通勤時間として多くの人が挙げたのが「10～30分」で、「0分」（在宅勤務）を挙げた人は5パーセント程度でした。アメリカと

の意識の違いが特徴的にあらわれています。とはいえ長期的にはSOHO型のワークスタイルへ移行するのは必然です。それに合わせてネットワークを活用できる開かれた社会を実現する必要が出てくるでしょう。新都市の街作りや生活をスタンダードとして全国に波及させていくのも狙いの1つです。



今回収録したCD-ROMは大蔵省印刷局からも1,340円（税抜）で販売されている。

付録CD-ROMで体験できる

## 首都機能都市を歩いてみよう



CD-ROM収録先：  
B:SYUTO



フォルダー内の「Start」アイコンをダブルクリックするとオープニングのあとメニュー画面が表示されます。都市内をゲーム感覚で探索する「仮想体験モード」のほか「自動散策モード」、「データ集」などがあります。

起動にはQuickTime4.0がインストールされている必要があります。

[www.apple.co.jp](http://www.apple.co.jp)

あなたの意見も反映できる

## ホームページから未来の街作りに参加する!

国土庁には首都機能移転についてのホームページが開設されている。移転先の新都市に関するアンケート結果のほか、首都機能移転そのものや新しい都市のイメージについての意見交換スペースもあり、交通や環境などさまざまな意見が集まっている。

CD-ROMで示された都市像はまだ仮のもの。移転計画自体の具体的な計画が出揃うのはこれからだ。体験した都市に対して感想や意見を提案すれば、未来の首都機能都市に反映される可能性もあるのだ。



都市内自動散策モード



データ集



都市内仮想体験モード



首都機能移転ホームページ  
 [www.nla.go.jp/daishu/](http://www.nla.go.jp/daishu/)



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)